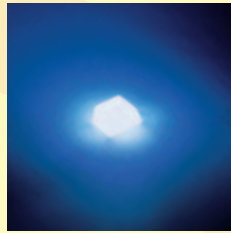


# 株主の皆様へ

---

## 第35期事業報告書

(平成16年4月1日～平成17年3月31日)





## TOP MESSAGE



**Q** はじめに会社の製品について、お聞かせください。

**A** 近年、街中にLED（発光ダイオード）のイルミネーションが増えており、自動車の内装照明にもLEDが使われるようになってきました。特に自動車の分野でさまざまな色のバリエーションに対するニーズを満たせるのが当社のLEDホワイトキャップです。ほかにも超透明シリコン製品、携帯電話用ゴム製品や医療・衛生用ゴム製品、卓球ラケットのラバーなどをつくっています。

**Q** 朝日ラバーの経営方針はどのようなものですか。

**A** 第34期（平成15年度）に始まりました中期三カ年の経営方針では「お客様に満足いただく製品・サービスを提供し、社会に貢献する」「独自の製品開発、素材開発で、参入する分野でのトップシェアを狙う」を基本方針としています。そのために「新しい発想での製品開発」と「生産現場での改善努力」を日々積み重ねています。

ここには、第32期でITバブル崩壊の影響を受けた反省「汎用製品だけに頼った状況には戻らない」が活かされています。

社員の意識改革はもとより、「これからの成長市場をどうキャッチするか」「その中で当社の強みをいかに発揮するか」というマーケティングと、人的・財政的資源の集中も行いました。おかげさまでLEDホワイトキャップは、ゴムメーカーでは競合他社がいない状態であり、他にも独自性のある製品が生まれてきています。

**Q** 具体的に、今期（第35期）を振り返って、いかがでしたか。

**A** 中期計画では、第33期31億円だった年間売上高を第36期50億円までもっていき目標を掲げましたが、第35期の今期は過去最高の40億円台にのせることができました。

新しい取り組みを行う過程ではさまざまな試行錯誤があり、その分、利益が伸び悩んだという点では変革の最大の難所でした。

**Q** 今後の市場環境や見通しについて、どのようにお考えですか。

**A** 日本経済は昨年度下半期からゆるやかな下降局面に入っています。これが今年の夏まで続き、去年に比べると国内の経済成長率は下がる可能性があるでしょう。

以前でしたら景気の影響を直接受けたところですが、現在はそれほど大きくはなく、まずまずの結果を残せるのではないかと思います。

ただし、原油価格の高騰による原材料費の値上げは覚悟しておかなければならないところです。

**Q** 来期（第36期、平成17年度）は中期経営計画の最終年度ですね。

**A** 「今年はいくぞ」という感じです。利益額・利益率ともに伸ばしていきたいですね。これまでの経営努力の成果が出ることを期待しています。

**Q** こうした朝日ラバーの強みはどこにあるのでしょうか。

**A** 「配合技術がある」「照明関係に力を持っている」「調色技術がある」と言われていますが、本当の強みは、新製品の開発力でしょうね。200人規模の会社にもかかわらず、新製品の売上高構成比は中期経営計画が始まる前の期に比べ4倍に増えています。

LEDはエネルギー効率がよく、当社製品を装着することで「やすらぎ」をあたえる色合いが出せます。「環境」「癒し」といった時代のキーワードにあった新製品も強みでしょうね。

社員はみな誠実で勤勉です。そして若い。設備投資や売上などを含めた、会社の年齢としても若いですよ。社員は会社の方向性が決まると、そこをめざしてがんばってくれます。



**Q** コーポレートガバナンス（企業統治）についてのお考えをお聞かせください。

**A** 今の会社の状態をしっかりと開示し、透明性を出していくことを大切にしています。経営効率の面では、子会社は数も人数も少ないですから、コミュニケーションも十分とれています。

**Q** 課題はありますか。

**A** 特許などの知的財産の競争はすさまじいものがあって、日本に出願されているLEDの特許は、年間2,000件以上も出されています。当社としても強化しなければならないところです。

**Q** 株主へのメッセージをお願いします。

**A** 株主の皆様への還元は最重点課題です。新製品開発とのバランスの上で、最大限、株主の皆様への配当による還元を進めていく方針です。

また会社情報の開示はきちんと行い、株主総会以外に個人投資家向け説明会を埼玉地区や都内で行うなど、株主の皆様、また将来株主になっていただける方との直接対話も重視しています。

これからも利益を伸ばす、そのための新製品を出していきたいと考えています。

短期的な利益も大切ではありますが、当社は中長期的な利益を生む会社であることをご理解いただけますよう、よろしく申し上げます。

#### 株主の皆様へ

第35期は、売上では過去最高の40億2千8百万円、経常利益は2億5千1百万円を達成しました。また1株当たり配当金も中間が5円、期末が7円、合計12円となりました。

平成17年6月

代表取締役社長  
**横山林吉**



## REVIEW OF OPERATION

### ●営業の経過及び成果

当期におけるわが国経済は、前半はアテネ五輪を背景にした液晶等のデジタル家電の需要増により好調に推移しました。後半からは原油価格の上昇や円高傾向による不安定要素を含みながらも金融不安の減少など、企業業績の回復とともに雇用情勢も改善傾向を維持するなど、景気は緩やかな回復となりました。

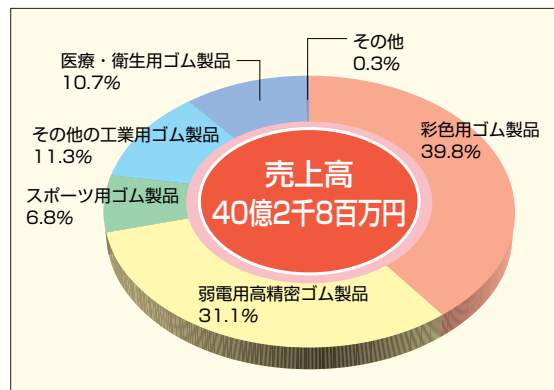
工業用ゴム製品を扱う業界におきましては、自動車関連製品は自動車生産台数が好調に推移したことによる生産増と、電子機器及びデジタル関連製品の需要増による生産量の伸びが見られ、引き続き海外生産移転による価格競争の激化もありましたが、全般的に好調に推移いたしました。

このような状況下において当社は、第8次中期経営計画（平成15年4月～平成18年3月）の2年目を迎え、事業領域として自動車・情報通信・医療介護の各分野への経営資源の集中を図り、お客様第一に徹し、独自の開発製品の市場供給を早めるための各施策を実施してまいりました。

この結果、売上高は40億2千8百万円（前期比18.3%増）、経常利益は2億5千万円（前期比34.9%増）、当期純利益は1億4千7百万円（前期比63.2%増）となりました。

主要製品群別の概況は、以下のとおりであります。

＜製品群別売上高構成比＞



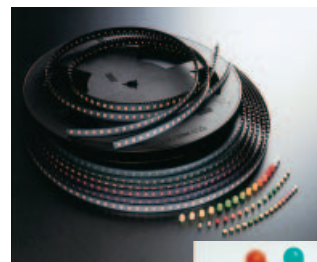
### ●主要製品群別の概況

#### 【工業用ゴム事業】

##### ＜彩色用ゴム製品＞

当社独自開発製品のアサ・カラー（小型電球彩色用ゴム）は、車載機器の光源が電球からLEDへ変化することに伴う売上減少により、前期比1.4%減となりました。一方、開発製品のLEDホワイトキャップ（青色LEDに被せることで豊富なカラーバリエーションを付加する彩色ゴム）は、車載機器の照明分野に向けての採用が進み、売上高は3億7千7百万円（前期比54.3%増）となりました。また、新分野展開に向け開発した超透明シリコーン製品は、携帯ゲーム機向けの応用製品の受注が順調に進んだ結果、売上高は2億6千万円（前期比126.9%増）となりました。

以上の結果、彩色用ゴム製品の売上高は16億5百万円（前期比18.9%増）となりました。





#### <弱電用高精度ゴム製品>

電子機器、通信関連機器や情報関連機器向けの弱電用高精度ゴム製品は、海外生産へのシフトによる厳しい価格競争の中にあって、顧客ニーズに対応するための高機能化と複合化等製品の差別化を一層進め、中でも好調な液晶テレビ関連市場の伸びを的確に捉えた結果、売上高は12億5千2百万円（前期比13.1%増）となりました。

#### <スポーツ用ゴム製品>

スポーツ用ゴム製品は、アテネ五輪による市場活性化の流れの中、顧客ニーズに合った新製品の開発に成功し、また既存製品の原価低減も着実に進めたことによる受注増の結果、売上高は2億7千4百万円（前期比7.8%増）となりました。

#### <その他の工業用ゴム製品>

その他の工業用ゴム製品は、新たな開発製品の量産化、新機種製品の受注獲得により、売上高は4億5千3百万円（前期比31.4%増）となりました。

以上の結果、工業用ゴム事業としての売上高は35億8千5百万円（前期比17.3%増）となりました。



#### [医療・衛生用ゴム事業]

#### <医療・衛生用ゴム製品>

医療用ゴム製品は、新規取引先開拓と開発製品の量産がスタートした結果、売上高は4億1千万円（前期比24.7%増）となりました。

また、衛生性、通気性、衝撃吸収性を追求した衛生用ゴム製品は、用途開発、試作品の提供や新規顧客開拓に取り組み、売上高は2千1百万円（前期比107.0%増）となりました。

以上の結果、医療・衛生用ゴム事業としての売上高は4億3千1百万円（前期比27.2%増）となりました。

#### [その他]

#### <その他>

その他の製品の売上高は1千1百万円（前期比17.6%増）となりました。



## TOPICS

### LEDホワイトキャップと超透明シリコン製品生産に向けクリーンルーム設置

本格的な量産が始まっているLEDホワイトキャップと、今後の量産が期待される超透明シリコン製品の生産現場において、来期以降の生産数量を視野に入れた生産スペースを確保することと同時に、安定した品質を確保するために、生産エリアの拡張とクリーンルーム化を実施しました。お客様が要求するQCDSをより一層満足いただけるよう、これからも改善を推進していきます。



クリーンルーム内のLEDホワイトキャップ生産工程

### 新しいものづくりの取り組み開始

生産効率をよりいっそう改善し製品競争力を高めるため、これまでのゴム生産とは違った新しい発想によるものづくりの取り組みが始まっています。材料投入から生産までの工程が自動の高速プレスの導入や、従来7つの工程を一人でこなせるような作業工程の取り組み、複雑な形状のため検査が難しかった製品の自動検査機の開発など、開発製品だけでなく既存製品の分野でも導入が進んでいます。



自動生産ライン



## 営業活動強化－客先での製品・技術展示会

彩色・照明製品事業部と高機能製品事業部の営業グループと技術グループでは、当社の製品および技術をより理解していただくため、客先のご協力のもと、客先での製品・技術展示会を開催しました。日ごろ対応いただいている担当者以外の方、また他部署の方にも来場いただき、当社の技術を活かした製品の特徴に興味を持っていただきました。お寄せいただいた質問や要望をもとに、さらに製品・技術を進化させて、お客様の要求に合った製品を提供していきます。



当社の製品と技術に高い関心が集まった製品・技術展示会の様子

## 個人投資家向け説明会開催

平成16年10月に東京・茅場町で個人投資家向け説明会を実施しました。当社として個人投資家に直接事業内容を説明することは初めての取り組みになります。開発製品でも特にLEDホワイトキャップについて、横山社長がその特徴と市場の成長性について説明し、LEDメーカーとの関係や製品の優位性についてなど多くの質問を受け、LEDホワイトキャップに対する関心の深さがうかがえました。今後もこうした個人投資家向けIR（投資家向け広報）を積極的に続けていきます。



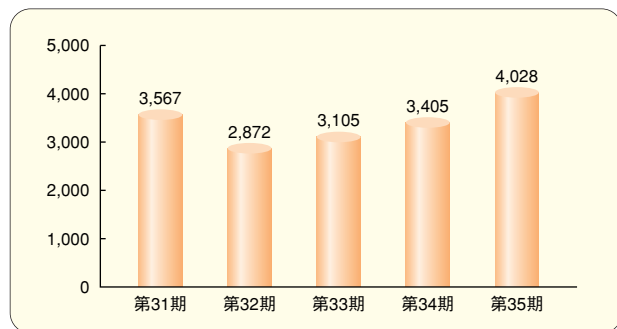
大勢の方に参加いただいた個人投資家向け説明会



# FINANCIAL HIGHLIGHTS

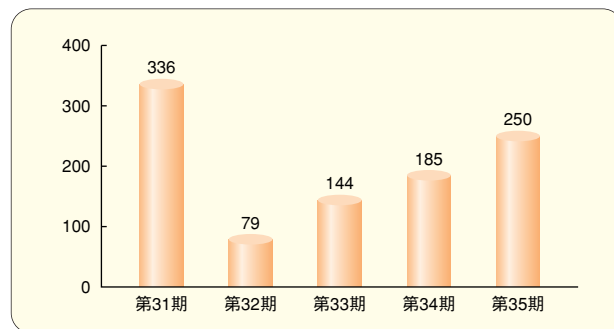
## 売上高 (単体)

(単位：百万円)



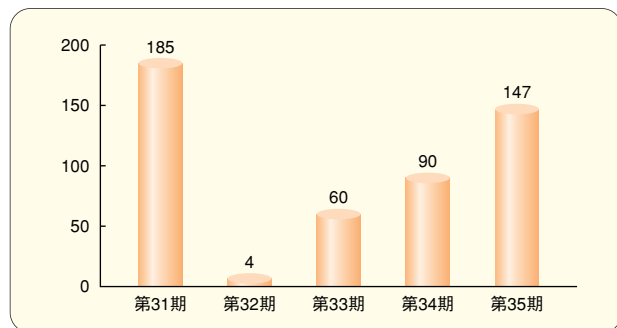
## 経常利益 (単体)

(単位：百万円)



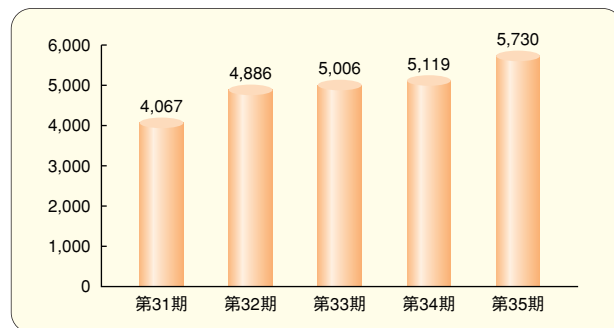
## 当期純利益 (単体)

(単位：百万円)



## 総資産 (単体)

(単位：百万円)



## ■主要財務データの推移 (単体)

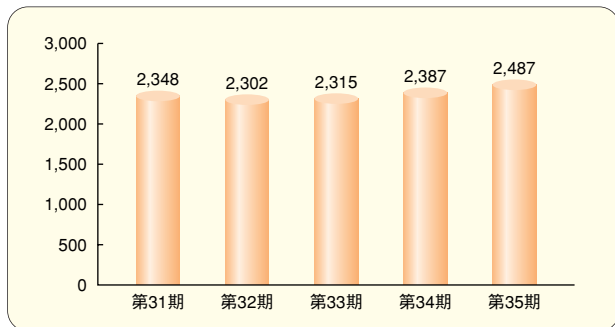
科目	第31期 平成13年3月期	第32期 平成14年3月期	第33期 平成15年3月期	第34期 平成16年3月期	第35期 平成17年3月期
売上高 (百万円)	3,567	2,872	3,105	3,405	4,028
経常利益 (百万円)	336	79	144	185	250
当期純利益 (百万円)	185	4	60	90	147
総資産 (百万円)	4,067	4,886	5,006	5,119	5,730





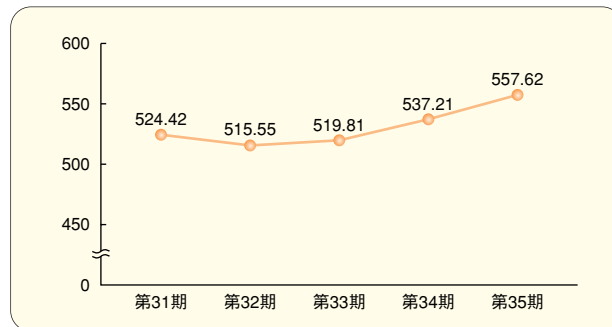
### 純資産 (単体)

(単位：百万円)



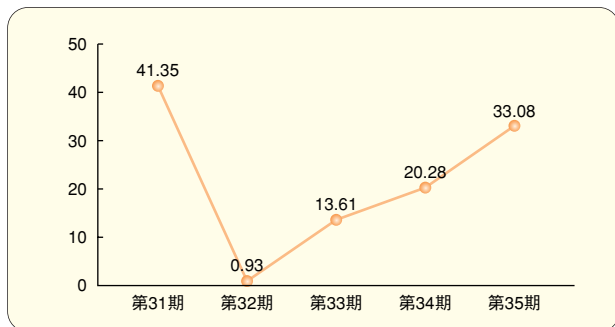
### 1株当たり純資産額 (単体)

(単位：円)



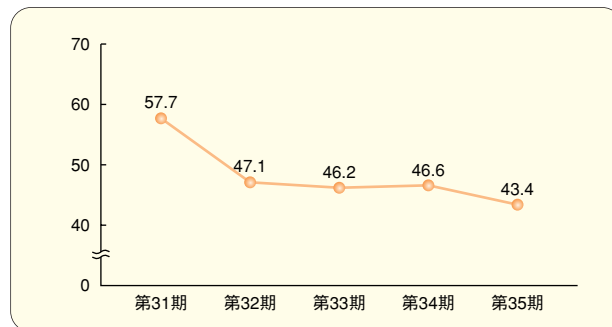
### 1株当たり当期純利益 (単体)

(単位：円)



### 株主資本比率 (単体)

(単位：%)



科目	第31期 平成13年3月期	第32期 平成14年3月期	第33期 平成15年3月期	第34期 平成16年3月期	第35期 平成17年3月期
純資産 (百万円)	2,348	2,302	2,315	2,387	2,487
1株当たり純資産額 (円)	524.42	515.55	519.81	537.21	557.62
1株当たり当期純利益 (円)	41.35	0.93	13.61	20.28	33.08
株主資本比率 (%)	57.7	47.1	46.2	46.6	43.4



# FINANCIAL STATEMENTS

## 連結貸借対照表 (平成17年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	3,012,736	流 動 負 債	1,847,581
現金及び預金	1,242,635	支払手形及び買掛金	725,331
受取手形及び売掛金	1,438,285	短期借入金	320,000
たな卸資産	260,475	一年内返済予定の長期借入金	323,400
繰延税金資産	37,180	未払法人税等	65,269
その他	45,586	その他	413,580
貸倒引当金	△ 11,428	固 定 負 債	1,428,116
固 定 資 産	2,792,399	社 債	700,000
有形固定資産	2,147,984	長期借入金	372,080
建物及び構築物	826,597	退職給付引当金	215,853
機械装置及び運搬具	627,339	役員退職慰労引当金	139,253
土地	559,205	その他	930
その他	134,840	負 債 合 計	3,275,698
無形固定資産	3,595	資 本 の 部	
投資その他の資産	640,819	資 本 金	487,792
投資有価証券	232,497	資 本 剰 余 金	429,000
繰延税金資産	98,822	利 益 剰 余 金	1,598,755
その他	333,679	株 式 等 評 価 差 額 金	53,884
貸倒引当金	△ 24,180	為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 8,050
資 産 合 計	5,805,135	自 己 株 式	△ 31,944
		資 本 合 計	2,529,437
		負 債 ・ 資 本 合 計	5,805,135

(注) 記載の金額の千円未満は切り捨てて表示してあります。



## 連結損益計算書 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目		金 額	
経常損益の部	営業収益		4,057,252
	営業費用		
	売上原価	2,760,567	
	販売費及び一般管理費	1,045,205	3,805,772
	営業利益		251,480
	営業外収益		
	受取利息および配当金	1,894	
	雑収入	17,933	19,828
	営業外費用		
	支払利息	17,687	
雑支出	2,611	20,299	
経常利益		251,009	
特別損益の部	特別損失		
	固定資産売却損	2,998	
	固定資産除却損	12,280	
	過年度役員退職慰労引当金繰入額	10,714	25,993
税金等調整前当期純利益		225,015	
法人税、住民税及び事業税	100,053		
法人税等調整額	△22,350	77,703	
当期純利益		147,312	

(注) 記載の金額の千円未満は切り捨てて表示してあります。

## 連結剰余金計算書

(単位：千円)

科 目	金 額
(資本剰余金の部)	
資本剰余金期首残高	420,590
資本剰余金増加高	8,410
資本剰余金期末残高	429,000
(利益剰余金の部)	
利益剰余金期首残高	1,518,167
利益剰余金増加高	147,312
利益剰余金減少高	66,724
利益剰余金期末残高	1,598,755

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	367,123
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 618,859
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,373
現金及び現金同等物に係る換算差額	10,095
現金及び現金同等物の減少額	△ 229,267
現金及び現金同等物の期首残高	696,259
現金及び現金同等物の期末残高	466,991



# FINANCIAL STATEMENTS

## 単体貸借対照表 (平成17年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	2,945,572	流 動 負 債	1,834,183
現 金 及 び 預 金	1,175,701	支 払 手 形	528,835
受 取 手 形 金	479,884	買 掛 金	196,495
売 掛 金	962,169	短 期 借 入 金	320,000
製 品	106,457	一年内返済予定の長期借入金	319,320
原 材 料	49,364	未 払 金	90,239
仕 掛 品	98,923	未 払 費 用	152,249
貯 蔵 品	4,818	未 払 法 人 税 等	65,169
前 渡 金	15,203	預 り 金	9,213
前 払 費 用	16,048	設 備 支 払 手 形	152,659
繰 延 税 金 資 産	35,885	固 定 負 債	1,408,669
そ の 他	12,472	社 債	700,000
貸 倒 引 当 金	△ 11,355	長 期 借 入 金	360,920
固 定 資 産	2,784,435	退 職 給 付 引 当 金	210,236
有 形 固 定 資 産	2,123,958	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	137,513
建 物	785,542		
構 築 物	39,832	負 債 合 計	3,242,852
機 械 及 び 装 置	615,783	資 本 の 部	
車 両 及 び 運 搬 具	4,823	資 本 金	487,792
工 具 器 具 及 び 備 品	109,544	資 本 剰 余 金	429,000
土 地	559,205	資 本 準 備 金	429,000
建 設 仮 勘 定	9,226	利 益 剰 余 金	1,548,423
無 形 固 定 資 産	3,305	利 益 準 備 金	36,200
ソ フ ト ウ ェ ア	7	任 意 積 立 金	827,870
そ の 他	3,298	特 別 償 却 準 備 金	27,870
投 資 そ の 他 の 資 産	657,171	別 途 積 立 金	800,000
投 資 有 価 証 券	232,497	当 期 未 処 分 利 益	684,352
子 会 社 株 式	30,600	株 式 等 評 価 差 額 金	53,884
長 期 前 払 費 用	10,753	自 己 株 式	△ 31,944
繰 延 税 金 資 産	96,528	資 本 合 計	2,487,156
長 期 性 預 金	126,048	負 債 ・ 資 本 合 計	5,730,008
保 険 積 立 金	170,177		
そ の 他	26,295		
投 資 評 価 引 当 金	△ 11,550		
貸 倒 引 当 金	△ 24,180		
資 産 合 計	5,730,008		

(注) 記載の金額の千円未満は切り捨てて表示してあります。



# 単体損益計算書 (平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目		金	額
経常損益の部	営業利益		4,028,880
	営業費用		
	売上原価	2,760,426	
	販売費及び一般管理費	1,019,459	3,779,885
	営業利益		248,994
	営業外収益		
	受取利息及び配当金	1,885	
	雑収入	20,065	21,951
	営業外費用		
	支払利息	9,964	
社債利息	7,500		
雑支出	2,610	20,074	
経常利益		250,870	
特別損益の部	特別損失		
	固定資産売却損	2,998	
	固定資産除却損	12,280	
過年度役員退職慰労引当金繰入額	10,714	25,993	
税引前当期純利益	法人税、住民税及び事業税	99,741	224,877
	法人税等調整額	△22,148	77,592
	当期純利益		147,284
	前期繰越利益		559,354
	中間配当額		22,287
当期未処分利益		684,352	

(注) 記載の金額の千円未満は切り捨てて表示してあります。

## 利益処分

(単位：円)

摘 要	金	額
当期未処分利益	684,352,550	
任意特別償却準備金取崩	7,072,602	
計	691,425,152	
これを次のとおり処分いたします		
利益配当金	31,222,380	
(1株につき7円)		
任意特別償却準備金	15,317,591	
次期繰越利益	644,885,181	

(注) 平成16年12月13日に、22,287,200円(1株につき5円)の中間配当を実施いたしました。



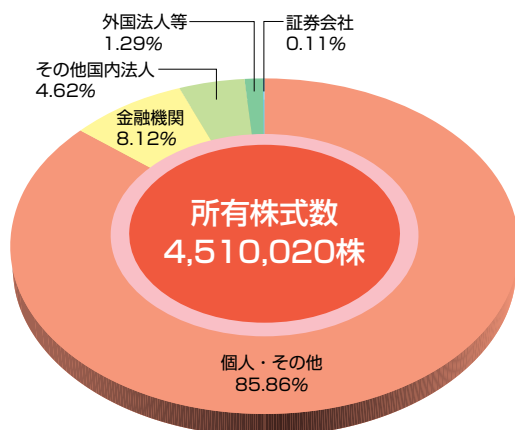
## SHARE INFORMATION

- 会社が発行する株式の総数 普通株式 11,500,000株
- 発行済株式の総数 普通株式 4,510,020株  
(注) 発行済株式の総数は、新株予約権の行使により、前期末に比べ31,500株増加いたしました。
- 株 主 数 1,033名

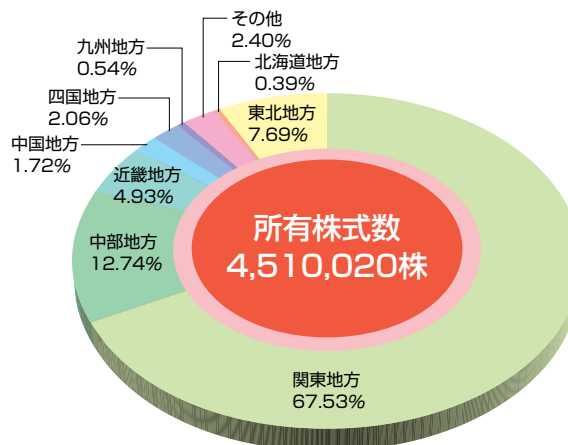
### ● 大 株 主

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数	出 資 比 率
伊 藤 巖	1,151,528 株	25.5 %
白 井 精 一	221,000	4.9
室 井 豊	134,500	3.0
有 限 会 社 本 宮 商 事	124,500	2.8
朝 日 ラ バ ー 従 業 員 持 株 会	121,528	2.7
株 式 会 社 武 蔵 野 銀 行	113,000	2.5
株 式 会 社 東 邦 銀 行	97,400	2.2
伊 藤 潤	81,500	1.8
朝 日 ラ バ ー 共 栄 持 株 会	80,500	1.8
第 一 生 命 保 険 相 互 会 社	78,000	1.7

### ● 所有者別株式の分布状況



### ● 地域別株主の分布状況





## CORPORATE DATA

- ◆商号 株式会社朝日ラバー  
(ASAHI RUBBER INC.)
- ◆本店所在地 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2
- ◆設立 昭和51年6月
- ◆資本金 4億8,779万円
- ◆従業員数 168名(平成17年3月31日現在)
- ◆主な事業内容 工業用ゴム製品の製造・販売
- ◆主な取引銀行 みずほ銀行／東京三菱銀行／武蔵野銀行／東邦銀行／常陽銀行／埼玉りそな銀行
- ◆事業所  
本社 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2  
大阪営業所 大阪府大阪市城東区蒲生1丁目12番10号  
福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地  
第二福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字山崎山1番地3  
上海駐在事務所 (中国上海市)  
子会社 ARI INTERNATIONAL Corp. (米国イリノイ州)  
株ファインラバー研究所 (福島県西白河郡泉崎村)

### ◆役員 (平成17年6月22日現在)

取締役会長	伊藤	巖
代表取締役社長	横山	林吉
常務取締役	伊藤	潤
常務取締役	中沢	章二
取締役	亀本	順志
常勤監査役	塙	雅夫
監査役	柳沼	晃
監査役	河野	先

### ◆ホームページ <http://www.asahi-rubber.co.jp>



当社のホームページでは、株主の皆様へ、財務情報を始め、さまざまな会社情報や製品紹介を行っております。ぜひ一度ご覧ください。

また、決算公告に代えて貸借対照表及び損益計算書の開示を当社ホームページで行っております。

<http://www.aspir.co.jp/kessan/5162/5162.html>



## SHAREHOLDER INFORMATION

### 株 主 メ モ

決 算 期	毎年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月開催
配当金受領株主確定日	毎年3月31日及び中間配当金を支払う時は毎年9月30日
基 準 日	毎年3月31日
名 義 書 換 代 理 人	その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同 取 次 所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
（郵便物送付先）	〒171-8508
（および）	東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
（電話照会先）	三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-707-696（フリーダイヤル）
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞

当社は決算公告に代えて、貸借対照表及び損益計算書を  
当社のホームページ  
<http://www.aspir.co.jp/kessan/5162/5162.html>  
に掲載いたしております。



〒330-0801 埼玉県さいたま市大宮区土手町2丁目7番2  
TEL 048-650-6051 FAX 048-650-5201  
<http://www.asahi-rubber.co.jp>